
巻 頭 言

評価・IRセンター初年度

副学長（評価・IR担当）

評価・IRセンター長 神 谷 修

秋田大学では、平成29年4月より、これまでの評価センターにIR機能が加わり、「評価・IRセンター」として新しく出発しました。体制と事業を充実するために、関係機関から多くのご指導を頂き、また学内の皆様には、委員会での議論や委員の派遣を通じて多大なご協力をいただき誠にありがとうございました。お陰さまで、平成30年度からの本格的なIR活動に向けて、初年度では体制と環境が整いつつあります。

IR（Institutional Research:機関調査）の役割のひとつに、大学の「強み」を分析して、リーダーの意思決定を支えることが上げられます。平成29年度には大学の「強み」に関連して、うれしい情報をもたらされました。それは、秋田大学の学生の就職した企業からの評判が良いという事です。日本経済新聞社と日経HRが実施している大学イメージ調査の有力企業847社の評価結果をまとめた「就職力ランキング」が平成29年6月に発行されました。それによると、企業の人事担当者に対するイメージ（評判）調査では、4つの調査側面のうち「行動力」と「対人力」の2側面で秋田大学はナンバーワンになり、また、今後採用を増やしたい大学でも1位になりました。その「行動力」1位の理由をみると、企業が学生に望む資質のうち「熱意がある」、「主体性がある」、「チャレンジ精神がある」の点数が8点（10点中）以上であったのは全ランキング対象大学のなかで秋田大学のみであったことによります。今後、この高いイメージポイントを有する卒業生は、どのようにして育成されたかという、教育、研究上の分析が必要と考えます。

一方で、平成29年3月に発表されたTHE世界ランキング日本版では、国内68位となっており、近隣の大学と比較して高校教員の評判が必ずしも良くないことが一因となっていることがわかりました。平成29年9月のTHE世界ランキングでは、秋田大学はランクインしたものの、世界では1001+にあると言う現状です。世界の大学数が約18000と言われているうち、THE参加大学は1457大学。このランクの低さは、秋田大学で発信した論文の研究者による引用数が不足していることに関連しております。それぞれのランキングにおいては、誰が何をどのように評価しており、秋田大学に何が不足しているかを分析することが大切だと考えます。つまり、各種ランキングはPDCAで言えば、C（Checking :評価）に対応するひとつの側面であり、それに引き続く分析としてのIR活動をして、戦略へとつなげてゆくことが大事になります。

さて、平成30年は第3期中期目標期間の3年目であり、4年目終了時評価に向けた準備を各部局と協力しながら進めることとなります。また、近づいてきた大学機関別認証評価の準備を並行して進めなければなりません。さらに、評価・IRセンターでは、教員評価の全学統一化に向けて、平成29年度に原案作りをして、今後の実施に向けて、協力をして参ります。今年度にスタートを切った、評価・IRセンターは、事業が満載です。これらの事業は、皆様のご協力無しには進めることが出来ません。なにとぞ、これまで以上のご理解を賜りますようお願い申し上げ、巻頭言に代えたいと存じます。